

寺に御堂屋敷を寄進す。

【本誓寺文書】 鳳至郡

一一四四

賣券狀御堂屋敷 新保

永代賣券奇進之御堂居屋敷之事

合一所者并代物參貫文也

右件之田地ハ、依有要用爲後生菩提之、本誓寺阿彌陀へ永代奇進申所實正明白也。上ハ御堂籬之内、下ハくづれの谷道よりおもて、北ハ臺所之屋敷迄にて候。縦於子々孫々如何様之儀申族雖有之、以此證文可有御沙汰候。其時聊違亂煩儀是有間敷候。全可有御知行者也。仍爲後日賣券寄進狀如件。

阿岸住人永長新保

永正九年二月廿八日

新九郎 在判

徳通 在判

新四郎 在判

寄進狀
本誓寺御坊まいる人々御中

四月四日。某、鳳至郡穴水來迎寺に藤内屋敷を

寄進す。

【來迎寺文書】 鳳至郡

一一四五

末代きまん仕藤内屋敷之事

合壹ヶ所者 此内ほり田有

右彼屋敷者、めいかくしやうけん御とむらいのために、末代きしんいたす者也。依きまん狀如件。

永正九年四月四日

在判

來迎寺

進之候

閏四月廿三日。石川郡白山宮に鰐口を寄進す。

【白山宮鰐口銘】

一一四六

信心施主所願成就故也。

白山御寶前 願主敬白

永正九年壬申潤卯月廿三日

大工久安住人藤原重家

五月十八日。僧定榮、鳳至郡河井の馬庭觀音堂に、五十疇の地を寄進す。

【重藏神社文書】 鳳至郡

一一四七

河井馬庭觀音堂ハ五拾疇之地永代寄進申候。有坪者藥師堂之後新保分内、諸役皆免所如件。

永正九年 甲午

五月十八日

定榮 在判

馬庭觀音堂

(干支を癸申とするは壬申の誤寫なり。又馬庭は馬場と訓むべく、今も河井町に馬場出・馬場崎の名あり。この觀音堂は重藏宮の所屬たりしなるべし。)

五月廿六日。山城立本寺日俊、加賀に下り、河

北郡本興寺成敗の條々を定む。

【本興寺文書】 河北郡

一一四八

成敗之條々

一、於當國本興寺可爲本寺之由、日齋上人御定之上者、諸村之寺并僧俗、可守本興寺之成敗之事。

一、於僧衆檀方之間、訴訟并公事邊之儀出來之時者、除論人訴人之兩人而、自餘之僧衆檀方、悉集會本興寺、相

遂談合、於法理者如宗旨之法度、如門流之成敗可糺明之。於世間儀者關互之眞實偏頗可廻無事之籌策。若不

叶籌策者、論人訴人お相拘、爲惣僧衆檀方中令注進京之本寺、可相待成敗之儀。若無此儀而、率爾僧中お引破

檀那お引僣輩者、爲本興寺集會之談合、論人訴人共可拂門徒之事。

一、如先年之成敗、於觀行院存生之間者、尙可守彼法

理法度之事。

右條々者、就今般下向、此方不和之儀無事之間、爲向

後無事此格式書者也。

永正九年五月廿六日

大僧都

日俊

七月五日。主殿寮、山城南禪寺領能美郡佐野村の年貢錢を領收す。

【主殿寮々雜々】

一一四九

納南禪寺領賀州佐野村年貢錢事

合拾貫文者